

特集：まちを使いこなす

まちなみ保存・活用

明智町・日本大正村

岐阜県明智町(第60号 2002/10/21)

木製建具、モザイクタイル、レトロ看板がちりばめられた商店が、ほどよく寂れながら生き生きと生活を支えている。大正に限らず時代を通じて町を大切にしてきた姿が、多くの人の懐かしさを呼び起こすのだろう。



まちなみ保存・活用

郡上八幡のまちづくり

岐阜県八幡町(第59号 2002/10/7)

城下町の住宅の改修・新築に際し、公的な助成はほとんどないにもかかわらず、実に美しい町並みが綺麗に手入れされて残っている。「普通の」人たちがまちに積極的に関わっている。



まちなみ保存・活用

やきもの散歩道

愛知県常滑市(第28号 2001/7/30)

現在建設中の国際空港の玄関口である常滑は、日本六古窯の一つに数えられるやきもの産地である。ここで、常滑の歴史・文化に触れられる「やきもの散歩道」が整備され、まちづくりに活用されている。



まちなみ保存・活用

美濃和紙あかりアート

岐阜県美濃市(第62号 2002/11/18)

「うだつ」の町並みを舞台に、特産品である美濃和紙を使ったあかりのアート展を開催。年々規模が拡大し、昨年(9回目)は人口の3倍7.5万人が訪れた。



スペース メールマガジン発

名古屋圏における

まち・建物を活用したとりくみあれこれ

2000年の創立10周年事業の一貫としてスタートしたスペースのメールマガジン。発行から2年半が経ち、名古屋圏のまち・建物を活用したとりくみを幾つかレポートしてきた。その事例をここで紹介する。

：今回の特集で取り上げた事例のうち、メールマガジンで紹介したものは以下のとおり。

- ・4ページ「築地地区の防潮壁を使ったとりくみ」——第46号 2002/4/8
- ・5ページ「西春町まちなか再生」——第60号 2002/10/21
- ・6ページ「円頓寺商店街の空き店舗活用」——第55号 2002/8/12

中心市街地活性化

マイスター倶楽部とまちづくり工房大垣

岐阜県大垣市(第18号 2001/3/12)

中心市街地活性化の一環として、大学のゼミが駅前通の空き店舗を借りてまちづくりにとりくむマイスター倶楽部、TMOの下部組織であるまちづくり工房大垣がある。(図はまちづくり工房大垣)



イベントによるまち活用

天王こども塾「津島なぞ解き探検隊」

愛知県津島市(第31号 2001/9/10)

市民組織・天王文化塾のとりくみ。地域に残る古井戸などをテーマにフィールドワークや井戸を見直す提案、竹で井戸の蓋を作るなど、大人との交流の中で子ども達が自分の暮らすまちについて考えた。



建物活用

さくらアパートメント(旧さくらや旅館)

名古屋市中区(第25号 2001/6/18)

名古屋都心で注目されている「栄南」にあり、かつての旅館を改装し、個性的な店舗が集積する話題の建物。



中心市街地活性化

商店街の空き店舗にEXPO市民サロンがオープン

愛知県瀬戸市(第27号 2001/7/16)

空き店舗を活用し、愛知県のビッグプロジェクトである博覧会のPRに留まらず、瀬戸市の観光やまちづくりの情報提供等を行っている。



イベントによるまち活用

観光文化交流研究会(かん・ぶん・けん)

愛知県犬山市(第29号 2001/8/13)

犬山のまちなか観光と里山文化を結ぶことで城下町を活気づけようと、まちを舞台にイベントを中心に活動している。



デイサービスセンター松岡大正庵

(旧松岡旅館)名古屋市中村区(第32号 2001/9/24)

かつての旅館や料理屋で親しまれた建物がお年寄りの憩いの場として生まれ変わった。



中心市街地活性化

半田市紅茶専門館T's CAFE

愛知県半田市(第38号 2001/12/17)

TMOが運営する紅茶専門館で、知多半島唯一の国重要文化財で地域のシンボルの建物を再利用した事例。

